

会議名	生ごみ資源化共同処理に関する、逗子市副市長と葉山町副町長との会議【概要】
日 時	2025年（令和7年）9月16日(火)13時22分～13時57分
場 所	逗子市役所3階 理事者応接室
出席者	<p>逗子市：</p> <p>柏村副市長 【環境都市部】石井部長 【資源循環課】鷺原課長</p> <p>葉山町：</p> <p>小野副町長 【環境部】町田部長</p>

【概要】

小野副町長：クリーンセンター再整備工事の状況を報告する。工事は2025年7月31日に竣工し、同年8月13日に完了検査を行い合格した。同年8月29日に当初契約の残金を支払い、本町に施設の引き渡しが行われている。増工事分と物価スライド分については協議が調っておらず、本町と共和化工(株)が「合意書」を取り交わして、引き続き協議を行っていくことになっている。

本町と共和化工(株)とは同年7月11日に協議を行っているが、増工事分について、共和化工(株)の積算額約8,400万円と本町の査定額1,600万円との乖離があり、現在、協議は平行線の状況にある。引き続き協議を行っていく。

町田環境部長：現在、我々が共和化工(株)と協議しているのは、工事の設計変更に伴う増工事分の協議においてであり、その協議が調った後、物価スライド分を協議するという形になる。

小野副町長：本日は生ごみ資源化処理施設で製造された「堆肥」を持参した。

柏村副市長：町民には配っているのか。

町田環境部長：まだ配っていない。当初、投入した生ごみの10%程度の堆肥が成果物として出来上がるという想定であったが、思いのほか分解が進み3%から4%位しかできていない。

石井環境都市部長：当初の貴町からの施設の性能の資料では3%～10%であった。

町田環境部長：かなり低い数字で、ゼロになってしまいのではないか。

石井環境都市部長：そもそも減容化が目的でもあるので、生成物が抑えられるというのには良い傾向だと思う。

小野副町長：堆肥は種菌にも回すことになる。今は町民に出せない状況にある。

柏村副市長：貴町と共和化工(株)との交渉は弁護士同士で行っているのか。

町田環境部長：7月11日の協議では、基本的に、町側は私が事務方が、共和化工(株)も役員等が直接やり取りをしており、代理人も同席はしているものの、推移を見守っているような状況である。

柏村副市長：次の段階に進むことはまだ考えていないのか。

町田環境部長：共和化工(株)は実際に下請け会社に払った実額ベースによる積算、本町は公共単価を積み上げた金額で査定しており、その考え方は平行線である。それを詰めるには第三者を入れないと難しいと考えている。

石井環境都市部長：本来、契約金額の変更の意向があるのならば、工事を進める前に協議を調えた上で、改めて工事を進めるということだと思うのだが。

町田環境部長：設計変更の段階で金額について協議を行い、金額が折合えば契約変更を行うのが正しいプロセスであるが、時間的な期限もあり上手くいかなかった。

石井環境都市部長：物価スライドも、本来的には、遡って物価スライドということは仕組的にはあり得ないはずである。

柏村副市長：物価スライドの基準日について、4月か12月かという違う日を双方が主張しているが、12月末以降の物価スライド分の逗子市の考え方は葉山町に伝えているのか。

石井環境都市部長：伝えている。12月が基準日だとすると、当初の竣工期限は12月末だったはずなので、そこから先の物価スライド分も工期の延長に伴って発生するものだとすると、逗子市側に工期の延長に関する責任は無いと考えているので、逗子市として簡単に負担しますという話にはならないということをこれまで伝えている。工期の延長に伴う部分を負担すべきかどうかということについては、強く議会からも指摘されている。

柏村副市長：一週間の搬入量の平準化のほか、年末の取扱いについても本市では課題として捉えている。貴町では平準化の考え方を変えることはできないか。

小野副町長：処理量のキャパを超えてしまうと対応が困難になる。

柏村副市長：貴町の方でストックして調整するという考え方もないのか。

町田環境部長：ストックすれば臭いの問題が発生するし、近隣の住民に対して理解を得られないので、ストックすることは厳しいというのが実情である。

柏村副市長：既に燃やすごみは逗子市が受け入れている。その際のごみの搬入量の調整は、出す側の貴町ではなく受け入れ側の本市の調整で行っている。貴町はごみの量を調整せず収集したものは全てその日に逗子市の環境クリーンセンターへ搬入している。

石井環境都市部長：可燃ごみもそうだが、容器包装プラスチックについても、葉山町からの受入れに当たっては、当時の処理施設が能力的に厳しかったので本市では新しい施設に更新し、きちんとストックヤードを設けた上で、受け入れ側で処理の平準化を行っている。本市としては、基本的にそのような考え方で可燃ごみも容プラも受け入れてきた。

柏村副市長：当初、年末も含めて受け入れ側で調整するという話であったと私は聞いているが、現在、改めて協議を行っている。そのところは調整がつかない中で始める訳にはいかない。本市としては課題と考えている。

小野副町長：大きな課題である。

柏村副市長：貴町における年末の収集は、町役場の開庁日と同様となっているが、本市では29日以降に臨時収集を行っている。その部分についても処理をお願いしたい。

石井環境都市部長：その辺を事務方同士で話をしていても、前に「引き継がれていない」という話をもらっている。当初、聞いていたのは、生ごみ資源化処理施設の運営は委託することによって、オペレーションで上手くやるのだという話を最初の頃は聞いていた。時間外勤務、土曜日、日曜日、年末年始の運営も含めて、委託でちゃんとやるという考えであると思っていた。

小野副町長：それは聞いていなかった。

町田環境部長：貴市が本町に生ごみを入れる条件としては、資本費で12月以降の分

がスライド対象であれば、それは資本費には反映させないということと、平準化については、受入側の葉山町の方で何とか溜め置き等の工夫をするということであれば、議会に説明ができるという理解で良いのか。

柏村副市長：年末の処理も含めてである。

小野副町長：その2点ということか。

石井環境都市部長：損害賠償のこともある。議会からもかなり指摘されている。

町田環境部長：物価スライドの協議に、何時、入れるのかも不透明な状況であるが、令和6年12月25日を基準日とすると、物価スライドの額が共和化工株と本町が折合った金額がいくらになったとしても、貴市の考えでは、その金額に関わらず、12月以降の分のスライドは貴市として負担すべきではないという考え方なのか。

石井環境都市部長：12月だとそういうことになるが、4月だと話が違ってくる。

町田環境部長：4月1日だと、その4月から当初の完成予定の12月末までについては、相応の負担は発生するということである。

石井環境都市部長：そこは市長も話しているところである。

町田環境部長：書面で出る前の口頭レベルの話で遡る訳にはいかないので、そこは町としては全面的に争うつもりである。

柏村副市長：見通しはどうなのか。

町田環境部長：基本的な考え方方が平行線のままなので、全く見通しが立たない。

石井環境都市部長：物価スライド分について共和化工株が求めている5億数千万円の金額を同社が実際に支出していることを確認できるものがあるのか。自治体の施設建設（物価スライドが発生）に携わっている廃棄物処理関係のコンサルに聞くと「そんな高額にはならないのではないか」と聞いている。また、物価スライドの仕組みとしては遡ることではなく、将来に向けての物価スライドについて、協議をする基準日を決めて、そこからいくらスライドするのかの協議が調った後、改めて残工事が始まるということである。「工事が全部終わった後に物価スライドはあり得ない」ということも聞いている。

町田環境部長：基本的な考え方の部分では自治体として折れる訳にはいかないので、その部分については、双方が協議しても時間の浪費に過ぎないということを先方に話してある。先方も代理人と相談して、本町に協議の要請を出してくると思うが、それが何時になるのか分からぬ状態である。

石井環境都市部長：共和化工株が建設工事紛争審査会や訴訟に進む気配はあるのか。

町田環境部長：現時点では共和化工株からの話は一切ないし、本町からも正式には話したことではない。ただ、客観的に判断してもらうしかないというレベルに来ているとすると、それも一つの選択肢かと思っている。

柏村副市長：今後、話し合う予定はあるのか。

町田環境部長：先方は早急に協議をしたいと言っているが、協議は平行線であり、同じことの主張しかできない。平行線のところについて来る。

柏村副市長：そうすると会わないということか。

町田環境部長：そういう返事になってしまふ。

石井環境都市部長：処理、運転自体は順調に円滑に言っているという感じなのか。「共和化工株のアドバイスをずっと受けながら」という感じなのか。

町田環境部長：以前にも話しているが、2026年3月までは共和化工株の運転支援という形で委託で契約を結んでいる。順調に日量約14トンを7時間で処理できている。

石井環境都市部長：様々な堆肥化施設を視察している中で、冬場は気温も下がって少し分解が遅くなることがある。この他、湯気、水分が蒸発するので、施設の中に湿気がこもり、天井に水滴がついてぼたぼた落ちるということを見ている。そのような状況も教えてもらいたい。

町田環境部長：逐一、報告させてもらいたい。

小野副町長：本町の職員は、1月に破除袋機の視察で網走へ行っている。そのときは、かなり高温になり湯気が出ていた。寒い所でも堆肥化処理ができていた。

石井環境都市部長：共和化工㈱が使っているYM菌は、かなり高温になる傾向があるので冬場も下がらないのかもしれない。

町田環境部長：80度、90度位まで上がっているということで、冬の外気温がどれだけ影響を受けるのか分からぬが。

柏村副市長：平行線ということは理解した。現在、本市が課題としている部分については、継続的に協議をさせてもらいたい。

石井環境都市部長：資本費が中々動かないということであっても、処理費と平準化については引き続き協議を事務方で行っていく。

小野副町長：そこが決まらないと進まない。

柏村副市長：資本費が決まったときに、未協議部分が残らないようにしなければならない。

町田環境部長：今後の事務方レベルの事務委託の協議なのだが、できるところはやっていきたい。処理費については、8月、9月の実績を示しながら、できるところは協議させてもらいたいと思う。

共和化工㈱との状況は、逐一、報告をさせてもらう。よろしくお願ひする。

以上